



令和三年

# 片山定期能 四月公演

令和3年4月10日(土) 午後1時開演(午後0時30分開場)

於/京都観世会館「地下鉄東西線『東山』駅下車徒歩約7分」

舞 狂 能  
 囃 言 江  
 子 清 口  
 經 笑 嘩  
 片山九郎右衛門  
 小笠原由祠  
 味方 玄

京都観世会館

〒606-8344

京都市左京区岡崎円勝寺町44

tel.075-771-6114

fax.075-761-6005

HP <http://www.kyoto-kanze.jp>

▼▼ 9～17時月曜休館  
 東隣にコインパーキングがございます。  
 「最初の1時間400円、以後30分200円」



# 片山定期能4月公演 [No.71-2]

令和3年4月10日(土)

午後1時開演 [午後0時30分開場]

13:00

## 舞囃子 清 経 —きよつね—

シテ/平清経の霊

片山九郎右衛門

笛 左鴻 泰弘  
小鼓 林 吉兵衛  
大鼓 河村裕一郎

地謡 武田 邦弘  
古橋 正邦  
分林 道治  
河村 和貴  
大江 広祐

13:15

## 狂言 咲 嘩<和泉流> —さっか—

シテ/太郎冠者  
アド/主  
小アド/咲嘩

小笠原由嗣  
小笠原弘晃  
泉 慎也

後見 山本 豪一

——休憩10分——

13:55

## 仕舞 歌 占 キリ —うたうら・きり—

シテ/渡会何某

大江 広祐

## 杜 若 キリ —かきつばた・きり—

シテ/杜若の花の精

河村 博重

## 須磨源氏 —すまげんじ—

シテ/光源氏の霊

大江 信行

## 善知鳥 —うとう—

シテ/狐師の霊

浦田 保浩

地謡 橋本 磯道  
橋本 忠樹  
河村 和貴  
河村浩太郎

——休憩10分——

14:25

## 能 江 口 —えぐち—

前シテ/里の女  
後シテ/江口の君の霊

味方 玄

ツレ/遊女の霊  
ツレ/遊女の霊  
ワキ/旅僧  
ワキツレ/従僧  
ワキツレ/従僧  
アイ/里の男

梅田 嘉宏  
武田 大志  
宝生 欣哉  
則久 英志  
宝生 尚哉  
小笠原由嗣

笛 杉 信太郎  
小鼓 曾和 鼓堂  
大鼓 谷口 正壽  
後見 青木 道喜  
大江 信行

地謡 片山九郎右衛門  
古橋 正邦  
片山 伸吾  
分林 道治  
田茂井廣道  
橋本 忠樹  
大江 広祐  
河村浩太郎

16:20頃 終了予定

◎当公演は通常の収容人数にて開催します。ただし入場時における消毒、検温等の措置は引き続き行います。また必ず**マスク着用**にて御入場頂きますようお願い申し上げます。

◎万が一入場制限が再規制された場合は、それに従って開催致します。

◎幕間にて随時換気を行います。

◎ロビー等にての会話は極力控え頂きますよう、お願い申し上げます。

### 《演目解説

舞囃子【清 経】 上演時間:約15分

平重盛の子清経は、源平の合戦で負け戦が続ぎ、西国(九州)へと都落ちする。その留守宅を守る妻のもとへ、使いの淡津三郎がやって来て、清経が入水自殺をしたことを知らされる。遺髪を見て心が乱れる妻は、形見を返すことにする。するとその夜、妻の夢枕に、清経の霊が現れる。妻は討ち死にか病死ならばともかく、何故自分を置き去りにして自殺したのかと恨むが、清経の霊も、自分が心をこめて贈った形見を返すとはどういうことだと、同じく妻を恨む。そしてお互いに、人を愛するが故の強い想いや源氏に敗れた平家公達の苦悩を語り合い、自分達の恨めしい運命を嘆く。やがて清経の霊は、死後に陥った修羅道での有様をも見せて消えていくのだった。

壮絶な源平の合戦の中に隠れた、夫婦のこまやかな愛情。自害の際に、月に詠じ笛を吹くロマンティスト清経の優しさ。武将の心の裏側を、限りなく美しく描いた佳曲である。本日は舞囃子での上演のため、清経が修羅道の有様を見せるところから始まります。

狂言【咲 嘩】 上演時間:約30分

連歌の初心者集まりで当番になった主人は、都の伯父に宗匠を頼もうと、太郎冠者を迎えにやる。ところが伯父の顔も家も知らない冠者が大声で捜し歩くので、「咲嘩」という悪者が伯父になりすます。冠者が連れ帰った人を見て、主人は人違いを詫言。また事を荒立てては面倒なので、咲嘩を穩便に帰そうとてなすが、愚かさを通り越した冠者が騒動を巻き起こす……!

【江 口】 上演時間:約1時間55分

旅の僧が都から摂津国天王寺へ赴く途中、遊女江口の旧跡を訪ねようと江口の里に立ち寄る。昔、江口の君に一夜の宿を断られた西行法師が詠んだ、「世の中を 厭ふまでこそ難からめ 假の宿りを惜しむ君かな」という歌を口ずさんでいると、一人の女が現れて、江口の君の返歌を問う。女は、江口の君は宿を惜しんだのではなく、西行が出家の身であることを思いやって、宿を貸さなかったのだという。そして自分こそがその江口の君であると明かし、消え失せる。

僧は里人に、江口の君は普賢菩薩の生まれ変わりであると聞き、奇特に思って申うことにする。すると月澄み渡る川面に、他の遊女達とともに江口の君を乗せた屋形船が現れる。そして江口の霊は、この世の無情を述べ、舞を舞い、物事に執着する心をなくせば迷いは生じないと説く。やがて船は白象となり、霊は普賢菩薩へと姿を変え、西の空へと去って行くのだった。

遊女のような言わば卑しい存在であるものが、実は普賢菩薩であったという発想は、現代においては考えられないが、中世においてはあり得たもので、華麗さと崇高さが融合された作品となっている。

### 《次回公演の御案内

#### 片山定期能7月公演

令和3年7月4日(日) 午後1時開演 [午後0時30分開場]

能 「朝 長」 青木 道喜

狂言 「伯 養」 茂山 あきら

能 「阿 漕」 河村 博重

### 《入場料

一般前売 3,500 円

一般当日 4,000 円

学生 2,000 円

回数券(四枚綴) 12,000 円

### 《チケット取扱所

京都観世会館

9~17時 月休 075-771-6114

片山定期能楽会事務局

10~17時 土日休 075-551-6535

情に棹

▽出演者等の変更がある場合は御了承くださいませ。

▽見所内での録画・録音は固くお断り致します。

▽同じく見所内での携帯電話やスマートフォンは、必ず電源をお切り頂きますようお願い申し上げます。

マナーモードも御遠慮くださいませ。

### 主催/片山定期能楽会

〒605-0088 京都市東山区西之町224

片山家能楽・京舞保存財団 内

tel.075-551-6535

fax.075-532-2841